

令和元年度 一般会計の主な事業

※1万円未満の額は四捨五入。

総務費

一般事務経費や防災などに係る経費です。

- 循環バス運行事業…7168万円
- 匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業…1299万円
- 公衆無線LAN環境整備事業…979万円

民生費

児童・高齢者・障がい者福祉などに係る経費です。

- 施設型給付事業…7億3827万円
- 自立支援給付事業…6億6587万円

衛生費

市民の健康づくりやごみ処理などに係る経費です。

- 東総地区広域市町村圏事務組合一般廃棄物処理事業特別会計負担金…8億5941万円

農林水産業費

農林水産業の振興に係る経費です。

- 土地改良助成事業…1億1082万円
- 被災農業者向け経営体育成支援事業…810万円

商工費

商工観光の振興に係る経費です。

- 商工業活性化支援事業…1215万円

土木費

道路などの整備や管理に係る経費です。

- 被災住宅修繕緊急支援事業…1563万円
- 市道1002号線ほか（八日市場ハ）道路改良事業…1299万円

消防費

常備消防や消防団に係る経費です。

- 消防施設整備事業…4829万円

教育費

小・中学校など教育行政に係る経費です。

- パークゴルフ場整備事業…2億9002万円
- 小学校空調設備整備事業…2億5415万円
- 小学校トイレ大規模改造事業…1億8717万円

台風の影響は…

令和元年房総半島台風などによって被害を受けた各種施設の復旧工事や、災害廃棄物の仮置き場設置と処分を行ったことなどにより、災害復旧費は前年度の396万円から1億7035万円（4301.9%）増加し、1億7431万円となりました。



災害廃棄物の仮置き場

◆表3 健全化判断比率

	匝瑳市の値	早期健全化基準値	財政再生基準値	全国の市区町村平均(※)
実質赤字比率	赤字なし	13.41%	20.00%	—
連結実質赤字比率	赤字なし	18.41%	30.00%	—
実質公債費比率	5.7%	25.0%	35.0%	5.8%
将来負担比率	21.2%	350.0%	—	27.4%

※総務省ホームページ「令和元年度決算に基づく健全化判断比率・資金不足比率の概要(速報)」から抜粋

◆表4 資金不足比率

	病院事業会計の値	経営健全化基準値
資金不足比率	資金不足なし	20.0%

表内の用語説明

実質赤字比率…財政規模に対する一般会計の赤字割合を示す指標
 連結実質赤字比率…財政規模に対する全ての会計の赤字割合を示す指標
 実質公債費比率…財政規模に対する借金返済額の割合を示す指標
 将来負担比率…財政規模に対する負債の割合を示す指標
 資金不足比率…公営企業の事業規模に対する資金不足の割合を示す指標

健全化判断比率と資金不足比率は、自治体の財政状況判断に使用したためです。

健全化判断比率・資金不足比率

金や地域振興基金など14の基金を設けています。

元年度末の基金残高は、前年度末より1億3902万円減少し、合計65億3698万円となりました。これは、国民健康保険財政調整基金や介護給付費準備基金などが増加した一方で、財政調整基金などを取り崩して使用したためです。

健全化判断比率が早期健全化基準や財政再生基準を上回った場合、各段階に応じた財政の立て直しを図ることとなります。

資金不足比率は、公営企業の事業規模に対する資金不足額の割合を示すもので、経営健全化基準を上回った場合、経営の立て直しを図ることとなります。

元年度決算における市の健全化判断比率、資金不足比率の数は、どちらも基準値を下回っています(＝表3、表4)。

問 財政課 財政班 ☎ 73・0085

市民病院の決算概要を公表

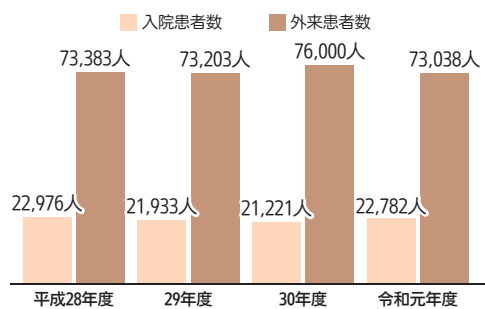
平成30年度より約5千万円の改善

病院事業会計の令和元年度決算が、他の特別会計と併せて市議会9月定例会で認定されました。一般会計から5億4892万円を繰り入れし、病院事業と介護老人保健施設事業を合わせた全体の収支は、6516万円の赤字でした。

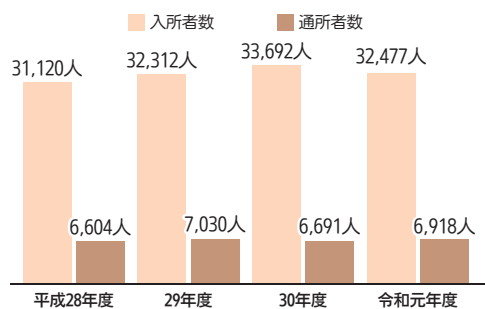
患者数などの状況

病院事業では、入院患者数が約2万2800人、外来患者数が約7万3000人でした。前年度と比べ、入院は7.4%増加、外来は3.9%減少しました(=図1)。

■図1 市民病院の患者数の推移



■図2 めくもりの郷の利用者数の推移



収支の状況

が約3万2500人、通所者数が約6900人でした。前年度と比べ、入所は3.6%減少、通所は3.4%増加しました(=図2)。

収益的収支

収益的収支は、病院事業と介護老人保健施設事業の経営

活動によって生じた収益と、それに要した費用です。

収益は25億9175万円(前年度との比較で9307万円、3.7%の増)、費用は26億5691万円(同4573万円、1.8%の増)となりました。この結果、収支は6516万円の赤字となりました。

資本的収支

資本的収支は、医療機器の購入や施設整備などへの支出と、その財源となる出資金や企業債です。

令和元年度は、大型医療機器などの更新はなく、収支は543万円の損失となりました。なお、一般会計からの繰入金を除いた収支は1億503万円の損失です(=表2)。

一般会計の繰入金

病院会計では、病院事業を運営する経費に充てるために一般会計から補助(繰入金)を受けています。元年度は総額5億4892万円の補助を受けました。

このうち、法令など国の基準に基づくもの(基準内補助)の一部は国から補てんされます。基準内補助に該当する4億5409万円のうち、2億5740万円が地方交付税として補てんされました。また、国の基準に基づかないもの(基準外補助)は9483万円で、病院の経営改善や、市が推進する在宅医療(訪問看護ステーションの運営経費など)に対する補助が主なものです。

問 市民病院 ☎ 72・1525

■表1 収益的収入および費用

	収益	費用	収支	一般会計からの繰入金を控除した収支	一般会計からの繰入金
病院事業	20億303万円	20億2255万円	▲1952万円	▲4億4209万円	4億2257万円
介護老人保健施設事業	5億8872万円	6億3436万円	▲4564万円	▲7239万円	2675万円
合計	25億9175万円	26億5691万円	▲6516万円	▲5億1448万円	4億4932万円

■表2 資本的収入および費用

	収入	支出	収支	一般会計からの繰入金を控除した収支	一般会計からの繰入金
病院事業	4676万円	4676万円	▲0万円	▲4676万円	4676万円
介護老人保健施設事業	5284万円	5827万円	▲543万円	▲5827万円	5284万円
合計	9960万円	1億503万円	▲543万円	▲1億503万円	9960万円

